

平成28年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告  
「やってみよう！環境学習プログラム」第5回「昔の暮らしから学ぶ①」

(テーマ：生活)

□実施日時 平成28年8月17日(水) 11時00分～16時15分  
(台風の影響で、開始時間を予定より1時間遅らせた。)

□受講者数 14名

□実施場所 八王子滝山里山保全地域、梅里会館

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局(研究所)から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義・体験

(ゲストティーチャー：NPO法人自然環境アカデミー専務理事 野村亮氏)

・里山とは

里山とはどのようなところか、里山と人とのつながりや、里山を生活にどのように活用してきたかを現場で見て肌で感じることによって、生物多様性や無駄のない生活を考えるきっかけとすることができる。

- ・八王子滝山里山保全地域内に入り、林の中を歩きながら、山栗や桑、葛などの植物、そこで暮らしていた人々の生活模様について説明





(間伐した竹を削って箸を作る)



(田圃にはたくさんのイナゴが生息)



(イナゴの佃煮)



## 【午後】

### 3. 環境学習プログラム「昔の暮らしから学ぶ！」

(講師:NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

#### (1) 「昔の暮らしから学ぶ！」プログラム紹介

昔と現在の道具や暮らし方の違いを比べることによって、子供たちの感性を磨き、「もったいない」や「道具の使い方」を工夫することによって安全でより環境に優しい生活を考える力を育てるプログラム。

- ・里山と人の暮らし、里山新聞について
- ・桜の枝を使ったエンピツ作り
- ・松ぼっくりなど木の実を使ったアクセサリー作り など





## (2) 「環境学習の意義について」 (各回共通説明事項)

子供の健全な成長には、バランスよく理性と感性の両方を伸ばしていく必要がある。特に現代では、日常生活において実感を伴う様々な「体験」が不足していること、それゆえに学校において「体験」を伴う学習の必要性が増してきている。環境学習は、学校における各教科学習を基礎に、それら教科学習と関連させて実施することが大切である等の説明があった。

## (3) まとめ (質疑応答及び発表、受講者同士の情報交換)

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等と作成した川柳を、受講者が一人ずつ発表し、講師がコメントをして、受講者間で情報を共有した。



## 4. 事務連絡、アンケート記入等 (事務局)

アンケート提出後、解散